

平成 22 年度ヒラメ稚魚分布密度調査結果（太平洋）について

当研究所では天然ヒラメの稚魚分布密度調査を平成11年から行っており、今年は8月3日、8月17日、8月31日に桁網（水工研型）を用いて太平洋の三沢市沖8点で行いました（図1）。ヒラメの分布密度は桁網効率を0.28とすると0~25尾/1,000m<sup>2</sup>の範囲にありました（表1）。採集したヒラメの全長モードは8月3日が30~40mm台、8月17日が60mm台、8月31日が110mm台でした（図2）。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、今年は14と低い水準になりました（図3）。これまでの調査結果を見ると、太平洋南部では着底指数が高かった年の翌年に1歳魚の漁獲尾数が増える傾向があることから、来年の漁獲はあまり期待が持てません。

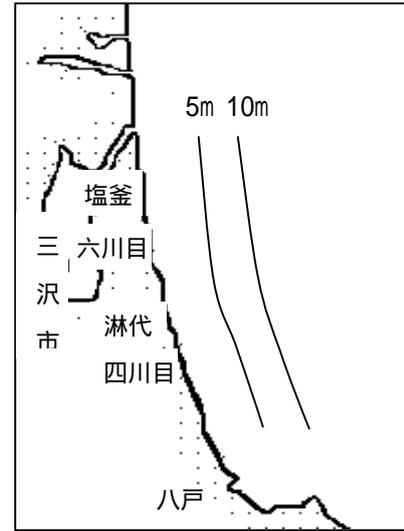


図1 調査地点

表1 ヒラメ分布密度

太平洋	水深	(尾/1,000m <sup>2</sup> )							
		5m				10m			
調査月日/調査点	四川目	淋代	六川目	塩釜	四川目	淋代	六川目	塩釜	
8月3日		0	2	2	2	3	0	0	0
8月17日		25	6	6	2	24	0	0	2
8月31日		16	11	14	17	9	4	0	5

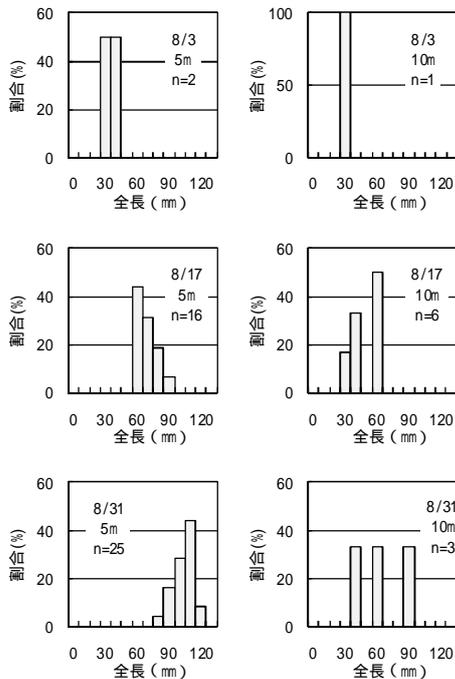


図2 採集したヒラメの全長組成

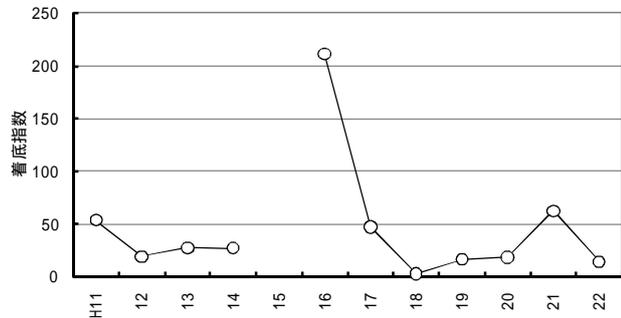


図3 太平洋のヒラメ着底指数の推移